

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1040 号	氏 名	南 澤 匡 俊
論文審査担当者	主 査 今村 浩 副 査 本田 孝行・岡田 健次		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>当院で急性心筋梗塞(AMI)を発症し4週間以内にABPM、MIBG心筋イメージを施行した連続63例を対象とした。血圧変動パターンにより、Dipper群(夜間降圧度10-20%：正常パターン、29例)とNon-dipper群(夜間降圧度0-10%、34例)に分類し、MIBG心筋イメージにて後期相心縦隔比(H/M)を計測した。全患者に対して、心血管イベントの発症の有無につき、前向きに2年間フォローした。観察期間中の心血管イベントは13例(21%)に観察された。Non-dipper群は、Dipper群と比較して有意に予後不良であった(p=0.013)。また受信者動作特性曲線(ROC曲線)を用いた心血管イベントを予測し得るH/Mのカットオフ値：1.96による比較では、H/M1.96未満の患者群(28例)はH/M1.96以上の患者群(35例)と比較して有意に予後不良であった(p=0.010)。さらに、Non-dipper型であり、H/M1.96未満の患者群(12例)は他の患者群と比較して最も予後不良であった(p=0.0020)。</p> <p>その結果、南澤匡俊は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 本論文はAMI患者におけるABPMおよびMIBG心筋イメージの自律神経系検査の併用が、心血管イベントのリスク層別化に有用であることを示した最初の研究である。2. Non-dipper型血圧変動パターンに伴い血小板凝集能の活性化や炎症性変化が関与し、動脈硬化所見の進行を促し、心血管イベントを来したものと推察された。3. MIBG心筋イメージでのH/M比の低値群は、心臓交感神経機能障害を意味し、カテコラミンによる心筋障害などの心機能低下を促し、心血管イベントを来したものと推察された。 <p>これらの結果より、ABPMおよびMIBG心筋イメージの両検査で自律神経系の異常を相互補完的に評価することで、AMI患者における高リスク群の選別に特に有用と考えられた。</p> <p>本論文はAMI患者の予後予測に対する自律神経系の関与について検証した臨床上有意義な研究であり、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			